

平成 23 年度（第 4 回）国土交通大臣賞

循環のみち 下水道賞



国土交通省

目 次

国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」について	2
下水道ビジョン 2100	3

水のみち部門

● 都心部における公園と融合した浸水対策 ～野球場が雨水調整池に変身！～	4
福岡県福岡市	
● 実験で知る微生物の浄化力 ～子どもの発見をもとにした自主的な浄化実験と地域の人々への情報発信活動～	5
長野県坂城町立村上小学校	

資源のみち部門

● 清瀬水再生センター 下水汚泥ガス化システム ～わが国初下水汚泥から新たなエネルギーを生み出し、地球温暖化防止に貢献する～	6
東京都	
● 汚泥の多層燃焼による温室効果ガスの削減	7
東京都	
● 下水道技術が環境を変える！入江崎水処理センターに水環境技術のショーケースが OPEN!!	8
神奈川県 川崎市	
● 北広島水処理センター（愛称「あしる」）におけるバイオマス利活用の取り組み	9
北海道 北広島市	

サステイナブル活動部門

● 災害に強い「神戸市下水道ネットワークシステム」	10
兵庫県 神戸市	
● PFI 事業による下水汚泥のバイオマスエネルギー利活用	11
富山県 黒部市	

特別部門

● 水面制御装置の海外展開	12
東京都	
● 東日本大震災で流失した水管橋の迅速な仮復旧の実現	13
岩手県 釜石市	

国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」

1. 創設の経緯

地球温暖化の進行や住民参画等による地域活性化への希求、また、老朽化施設の急増など下水道を取り巻く情勢は大きく変化しており、持続可能な循環型社会の構築に向け、今後の下水道には多様な使命と役割が期待されているところです。このため、国土交通省では「下水道ビジョン2100」（3頁参照）を策定し、21世紀社会の下水道の基本コンセプトとして「循環のみち」の実現を掲げ、このための基本方針として「水のみち」、「資源のみち」の創出、「施設再生」の実現の3つの方針を打ち出しました。これを受け、平成20年度に「国土交通大臣賞〈循環のみち下水道賞〉」を創設しました。（「水のみち部門」、「資源のみち部門」、「サステイナブル活動部門」、「特別部門」の4部門で構成。）

2. 部門について

(1) 水のみち部門

- 水が本来有する様々な機能を活かす水循環の健全化に向け、水再生・利活用ネットワークを創出するための取り組み
（事例）・NPOや自治会と協働したせせらぎの形成・維持管理
・地域が一体となった健全な水循環のための取り組み
・下水道による良好な水辺空間等を活用した独創的な啓発活動 等

(2) 資源のみち部門

- 将来の資源枯渇への対応や、地球温暖化の防止等に向け、資源回収・供給ネットワークを創出するための取り組み
（事例）・先進的な新エネルギー・省エネルギー対策
・地域ぐるみでのバイオマスの資源回収・活用の取り組み 等

(3) サステイナブル活動部門

- 「水のみち」、「資源のみち」の実現を支え、新たな社会ニーズに応える、サステイナブル下水道を実現するための取り組み
（事例）・新たな建設・維持管理技術の導入等によるライフサイクルコストの低減に向けた取り組み
・地域の創意工夫を活かしたコスト縮減（民地を活用した露出配管など）や独創的な接続促進方策等経営改善に向けた効果的な取り組み 等

(4) 特別部門

- 上記の3部門の他、特に先導的な取り組み
（事例）・先進的な技術開発
・積極的な国際協力活動 等

※平成23年度においては、東日本大震災における迅速な応急対策についても対象としています。

3. 「循環のみち下水道賞選定委員会」について

循環のみち下水道賞の表彰にあたっては、あらかじめ第三者による「循環のみち下水道賞選定委員会」において審査の上、対象団体を決定します。

○「循環のみち下水道賞」選定委員会委員名簿（敬称略）（平成23年8月9日現在）

- | | | | |
|-------------------|--------|-------------|--------|
| ・東京大学大学院教授 | 石川 幹子 | ・明治大学理工学部教授 | 北野 大 |
| ・日本環境教育フォーラム理事長 | 岡島 成行 | ・読売新聞編集委員 | 近藤 和行 |
| ・ジャーナリスト・環境カウンセラー | 崎田 裕子 | ・漫画家 | のむら みみ |
| ・東京大学大学院教授 | 花木 啓祐 | ・国土交通省下水道部長 | 岡久 宏史 |
| ・タレント | 江戸家 猫八 | | |

下水道ビジョン 2100

(平成17年9月下水道政策研究委員会・下水道中長期ビジョン小委員会報告)

下水道を使命と実現するための施策の考え方

20 世紀型下水道

- 下水道の普及拡大に重点
 - ・汚水の効率的な「排除・処理」による公衆衛生・生活環境の向上
 - ・雨水の速やかな「排除」による浸水対策

住民にわかりやすい情報発信と住民との対話

21 世紀型下水道

- 健全な水・資源循環を創出
 - ・「排除・処理」から「活用・再生」への転換により、美しく良好な環境の形成並びに安全な暮らしと活力のある社会を実現

下水道から「循環のみち」への転換

〈基本コンセプト〉 循環のみち

—地域の持続的な発展を支える21世紀型下水道の実現—
これまでの下水道機能に加え、持続可能な循環型社会の構築を図るため、健全な水循環及び資源循環を創出する新たな下水道を目指します。

「循環のみち」実現のための3つの方針

〈基本方針〉 水のみち

水が本来有する様々な機能を活かす水循環の健全化に向け、水再生・利活用ネットワークを創出します。

〈基本方針〉 資源のみち

将来の資源枯渇への対応や、地球温暖化の防止等に向け、資源回収・ネットワークを創出します。

〈基本方針〉 施設再生

「水のみち」、「資源のみち」の実現を支え、新たな社会ニーズに応える、サステイナブル下水道を実現します。

平成23年度「循環のみち下水道賞選定委員会」(8月9日)における審査の様様



